

二月の声を聞くともう春もすぐそこまで、と、思いがちですが立春前後が最も冷え込む時季体に気を付けてお過ごしください。

とは言えこの時季の空が一年中で最も澄んでおり星空の観望には適しています。

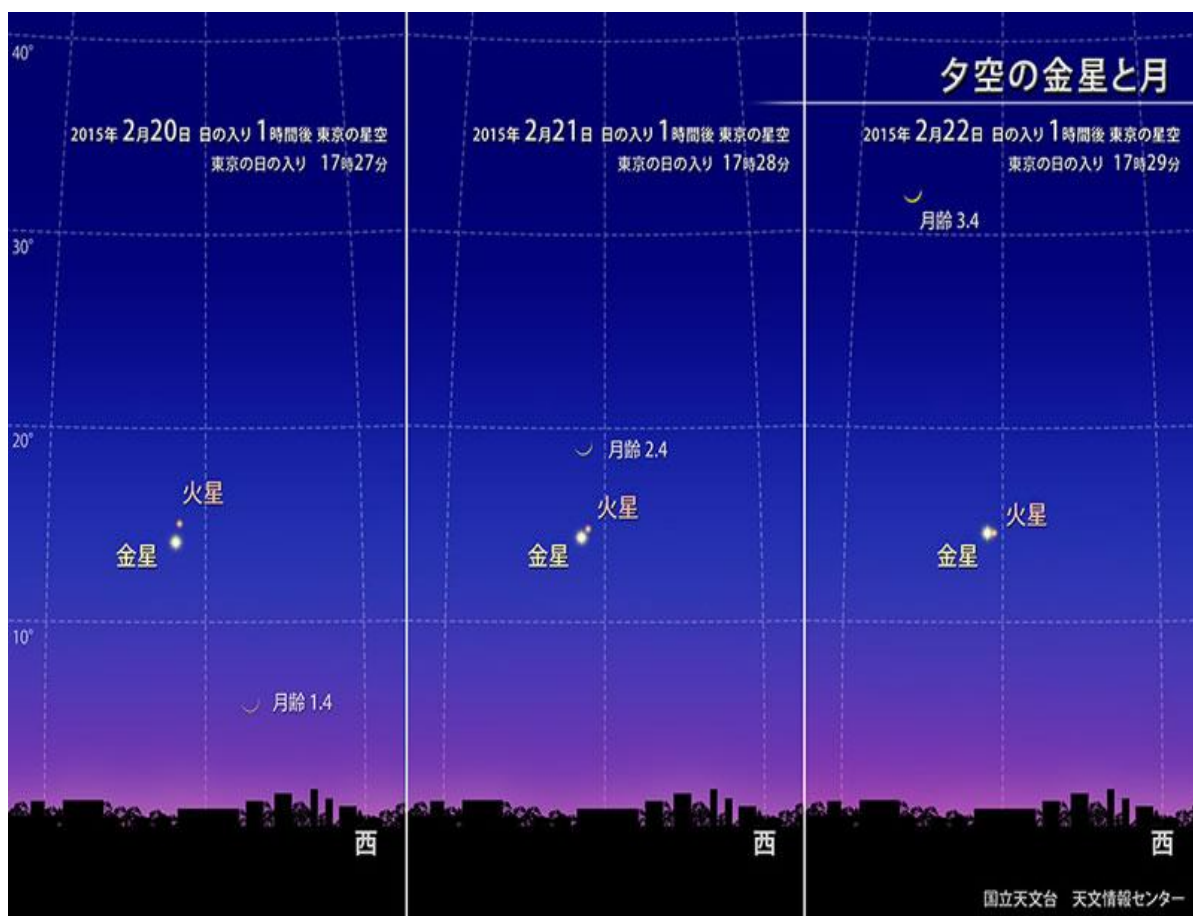
日が暮れて茜色の夕焼けが美しい西の空を見ると、まだ青空の中に一つだけ妙に目立つ星が見えます、これが太陽と月以外では最も明るく見える星（惑星の）金星です等級としては-4等級、これは大雑把ですが全天に有る恒星の中で20個程ある1等星のなんと100倍の明るさです、場所が分かると日中でも探す事が出来ます。

夕空との対比を楽しんで観てください、100年前も100年後も変りない景色だと思いつつながら見ると改めて自然の雄大さが思われます。

夕暮れの西空には金星の他に火星、天王星、海王星と太陽系の惑星の内4つも同じ方向に見えています珍しい事ですね、この内天王星と海王星は肉眼では見えませんので機会が有る方は天体望遠鏡で挑戦して見てください、火星は1等星として輝いており金星ほどには目立ちませんが肉眼でも充分観望出来ます、2月の中旬から下旬に掛けては金星と見かけ上接近しますので探すのも比較的楽になります。

又、夕焼けを観た後真後ろ（東の方角）を観ると木星が観えます、徐々に暗くなって行く星空の中であって段々と高く、明るく存在感が増して来る事でしょう、明るさは-2.5等星金星には及びませんが暗くなった星空の中では群を抜いて目立ちます、やはり双眼鏡や望遠鏡を使い木星の衛星や表面の様を確認出来るかどうか挑戦して見てください。

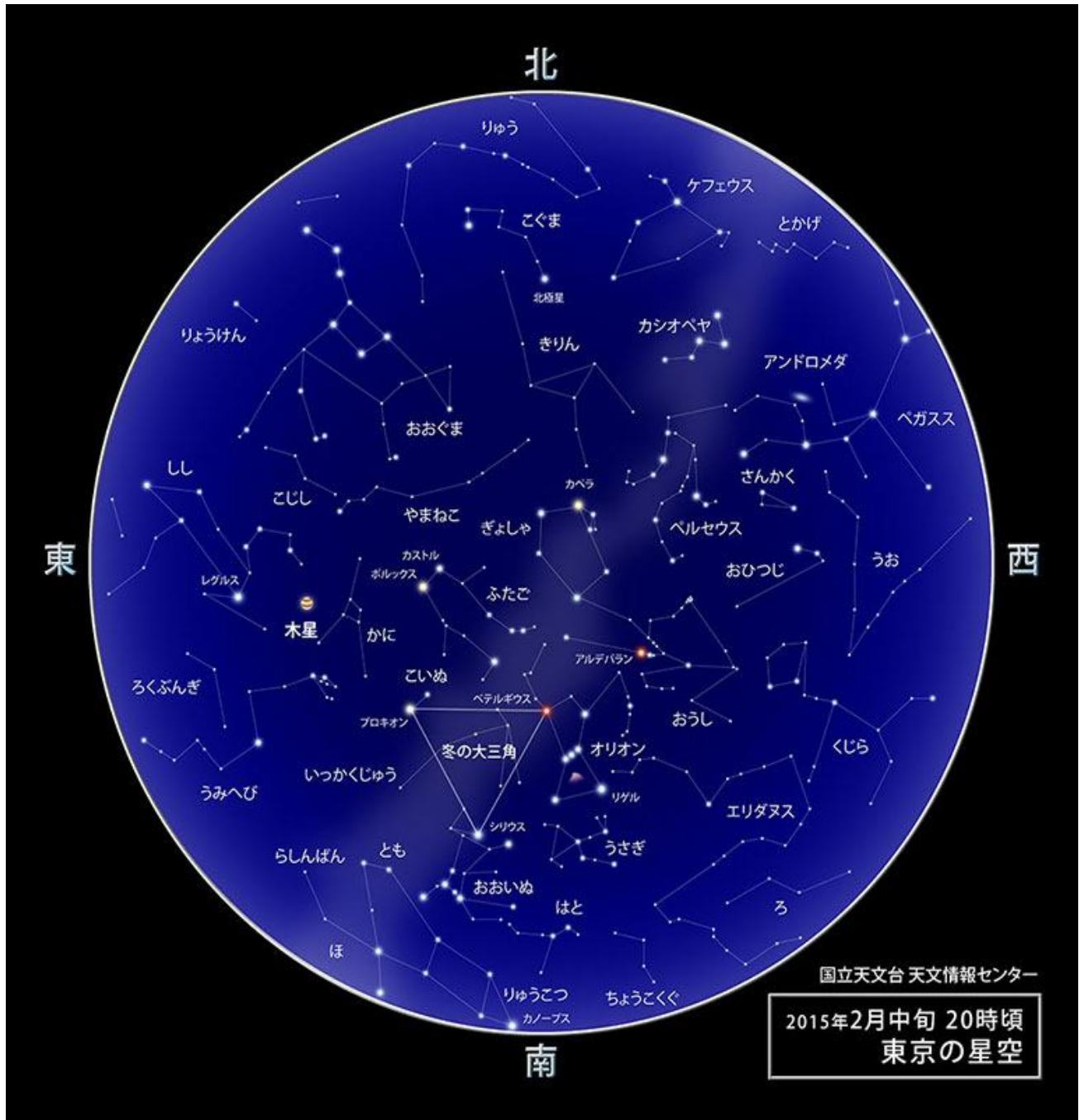
余談ですが太陽などの恒星と惑星の簡単な見分け方をひとつ、肉眼で見ると恒星は何となくチカチカ光が揺らいで見えます、一方惑星の方は光の揺らぎが無くどっしりした感じに見えます、どうぞ御自分で確認してみてください。



又、星空は空気が澄んでいることもあり思った数以上の星が見えたのには驚かされました。ビックリしたとは言え如何せん東京の23区内のこと、郊外で見る星の数とは比べ物になりません、しかし星座の姿をなぞるには丁度良いのかも知れませんね久しぶりに上を向いて歩いていたら水溜りに足をとられてしまいました。

この時季には明るい星、有名な星座が多いので探してみてください。

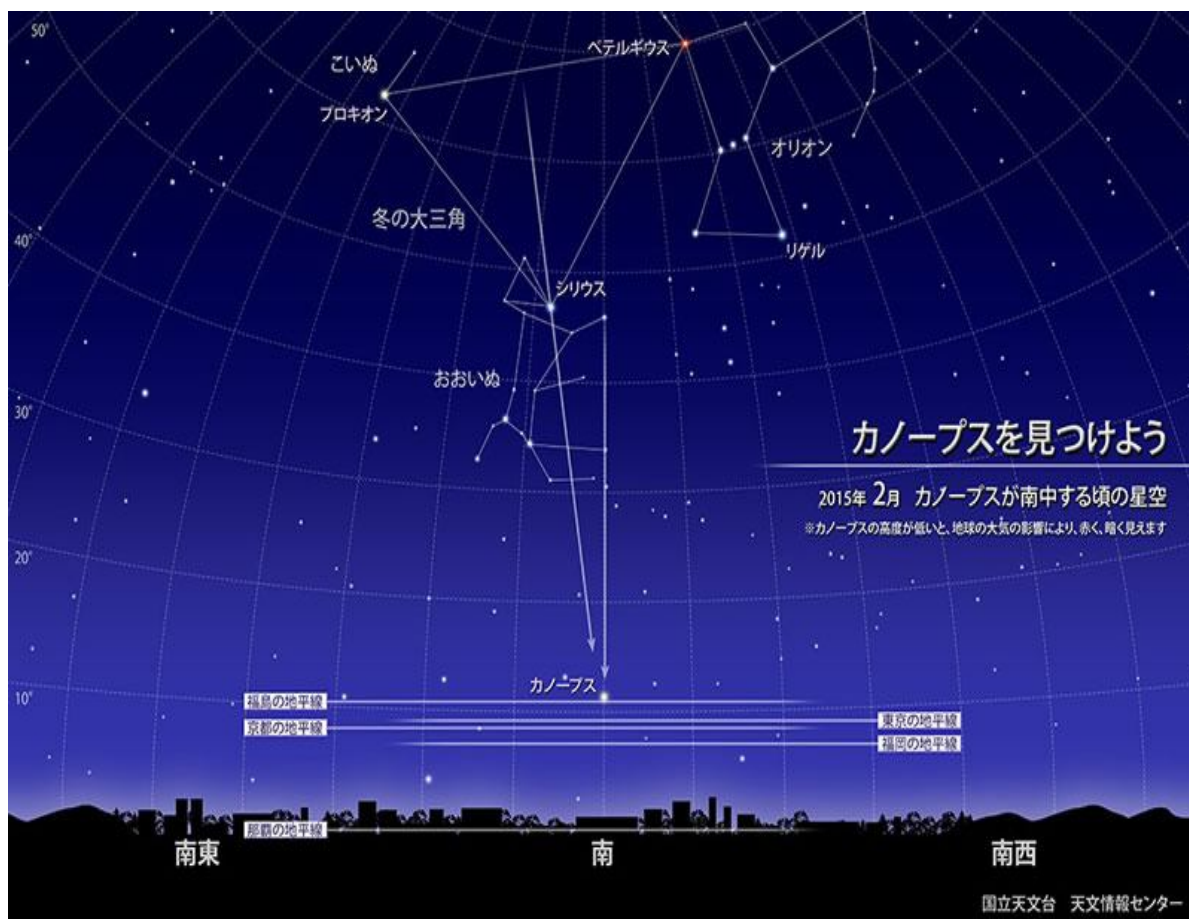
先日スマホに入れた星空アプリで探索した所、星座も個々の星々も簡単に見つける事が出来ました、スマホ、タブレットをお持ちの方は是非試してみてください。



そして今月ぜひ挑戦して見てもらいたいのが、りゅうこつ座の $\alpha$ 星カノーブス。  
 この星は恒星としては全天で2番目に明るい $-0.7$ 等星、おおいぬ座のシリウスに次いで明るい恒星です、見た目の明るさも明るいのですが実際の明るさも明るく太陽をカノーブスの位置に持って行くとなんと明るさは $+9.8$ 等星になってしまい双眼鏡か望遠鏡でないと見る事が出来ない星になってしまいます。  
 この星の逸話は色々あり、アラビア人は今でも回教の教祖マホメットの星として信仰している人もいます、日本では白い鶴に乗った背の低い神様、七福神の寿老人を指す星

だそうです、又中国では南極老人星として史記に乗っておりこの星を見ると長寿になれる、またこの星が見えた年は国が良く治まると記されていました。

西洋では昔トロヤを攻めに行ったギリシャ軍の水先案内人の名がカノープスその功績を認められて星に名を残しました。



探すことは楽では有りませんが大変な分探せた時の充実感はかなりモノです。

(寿命が少し延びるかもしれませんね。)

探し方としては上図の様に夜、南の空を見ると誰もが簡単に探せるオリオン座を基点に探してみましよう、オリオンが南の空高く昇ったとき左下に見える全天一明るい恒星（シリウス）からやや垂直に地面をたどります、地上すれすれの所に大気の関係でボンヤリ赤く見える星カノープスが見られるはずで。

但し、南中した時の高度が非常に低いので大体の観望好機時間を示しておきます、(2月半ばで南中時間が20時30分頃)・(2月末頃で19時30分頃)・(3月10日頃で19時)この時間前後に確認して見てください。

南中高度の計算ですがカノープスの赤緯が $-52.7$ 度なので次の計算で高度がだせます。

(90度) - (52.7度) - (観測地の緯度)

東京で計算すると  $[90 - 52.7 - 35.7$  (東京の緯度)  $= 1.6$  度]

(\*\*1.6度は大体満月の3個分になります)

数字上の高さは1.6度ですが大気差が含まれるともう少し上に見えるそうなのでチャンスはあります、一生の内一度でも見ておきたい星ですね。

くれぐれも防寒には気を付けてください。